

# NEW CROWN 授業実践事例

BOOK 1 LESSON 5 授業例②

F.T. 先生

## 指導計画表

(全6時間)

時間	学習内容・主な活動
1	■導入 ■Get Part 1, 2 ・文法の導入 ・語句・表現の導入
2	■Get Part 1 ・本文の導入・理解 ・コミュニケーション活動 (リスニング等)
3	■Get Part 2 ・本文の導入・理解 ・コミュニケーション活動 (リスニング等)
4	■導入 ・コミュニケーション活動 (代名詞ゲーム) ■Get Part 3 ・文法の導入 ・語句・表現の導入
5	■Get Part 3 ・本文の導入・理解 ・コミュニケーション活動 (リスニング等)
6	・レッスン全体のまとめ

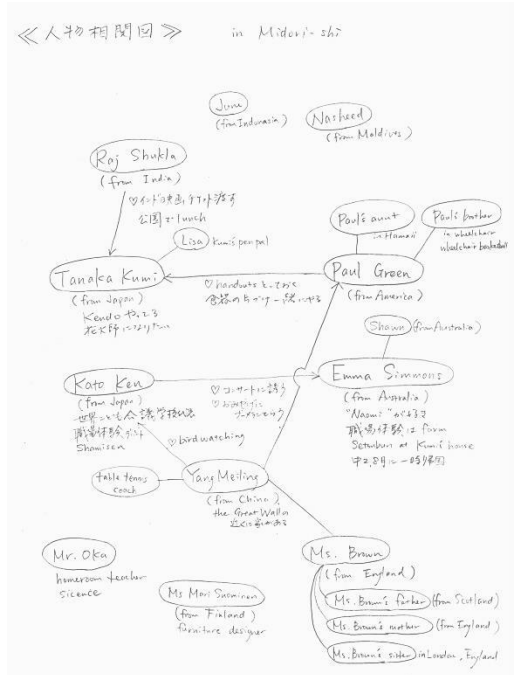
## 実践例

### 1. 魅力あふれる登場人物たちに注目して

NEW CROWN を使用していて気づいたことがある。それは、3年間を通して登場人物のころと体の成長が感じられることである。描かれている人物たちは次第に大人っぽくなり（挿絵でもわかる）、3年が経過していることを表している。それぞれの人物は LESSON を重ねるたびにお互いを知り合う。例えば Ken である。彼は Emma との会話のシーンが多くあるが、Book 1 の LESSON 4 で一緒に買い物に行き、Book 2 の We're Talking 2 では彼女の家に遊びに行って一緒に CD を聴く。LESSON 6 になると Emma にももらった boomerang をとても喜ぶシーンがある。さらに Book 3 になると We're Talking 4 で元気がない Emma を必死に励まし、最後の We're Talking 8 別れのシーンは、涙すら流しそうなほど別れを惜しむ会話が繰り上げられる。こうした一連の流れを通して、ひょっとしたら Ken は Emma に淡い恋心を抱いていたのではないかと想像できる。三省堂さんは意図して描いていたわけではないとおっしゃっていたが、読み手としては何かあるとしか思えない構成である。そんなことに気づいてから、授業で生徒に登場人物の会話の外にある気持ちについても考えさせることに注意を払うようになった。すると Ken と Emma の関係だけでなく、Kumi と Paul, Meiling や Raj などその他の主要登場人物の複雑な人間関係が垣間見え、相関図を作って読み進めることにした。（図1）結果として新たな教科書の読み方を工夫することができ、年ごろの生徒の興味関心を引き出した。

英語の授業の中心は、概して新しい表現（文法事項）を学ぶことに偏りがちである。しかし教科書を読むために新しい表現（文法事項）を学ぶと考えれば、ある程度まとまった文章を読むにもそれほど苦にならないように思われる。「教科書を学ぶ」のではなく「教科書で学ぶ」のである。英語がコミュニケーションのツールであるという考え方になるのだ。

【図1】



### 2. 新たな人間関係が生まれる

この LESSON 5 は、校内で Meiling が転校生の Raj に気づき担任の丘先生にたずねるシーンから始まる。新しい人間関係が生まれるのである。

初めて出会う人のことを知りたい場合、その人の情報を得るためにたくさんの質問をする。その際「いつ」「どこ」「なに」「どうやって」などを使うだろうことは予想がつく。Meiling は Raj のことをどんな風に知っていくか、その初めの一歩のシーンであることを生徒に意識させ、自分だったらどんなことを聞か想像させながら本文に入る。

いったん GET Part 1 と 2 を同時に聞かせ、Meiling が Raj についてどんなことに興味を持ち、どんなことを知りたがっているか、疑問文（生徒にはクエスチョンマークがついている文であると説明する）にアンダーラインを引くなどして注目して聞かせる（この時点ではまだ説明をしない）。次に、生徒たちはグループになって初対面の人について知りたいたいことは何か、話し合せて意見を出す。そこで新しく学ぶ表現として who, where, when などを使っ

てみよう」と提案するのである。ここで疑問詞をまとめて導入する。そして教科書の内容を丁寧に解説する。改めて GET Part 1 と 2 を聞かせて、自分たちが初対面の人に聞きたいと思う質問と照らし合わせる。さらに本文以外のグループで出た質問についても合わせて教える。交換留学生や ALT 講師など、英語を使って話す場面があった時に役に立つことを知らせておけば、丁寧にノートをとる生徒もいる。

【初対面の人に聞いてみたいこと】

～教科書を参考にして～

- 名前：What's your name?
- 出身：Where are you from?
- 年齢：How old are you?
- 住んでいるところ：Where do you live?
- 誕生日：When is your birthday?
- 好きなスポーツ：What's your favorite sport?
- 好きな食べ物：What's your favorite food?
- 好きな動物：What's your favorite animal?
- 好きな番組：
- What's your favorite TV program?
- 好きな色：What's your favorite color? など

ところで Meiling は Ken と登場する回が多くあり、その中で次第に友情（もしかしたら愛情も？）が深まっていく。Book 1 の LESSON 1 ではバスケットボールをする Ken を褒め、のどが渇いているか尋ねている。そのシーンの絵で Meiling は水筒を持っていて、Ken に飲み物を渡すであろうことが推測される。LESSON 3 の最初の絵をご覧ください。けん玉を披露する Ken に羨望のまなざしを送っている。ここまででわかる人間関係を生徒と一緒に整理する。ただし、Meiling は他の男の子にも興味があるようで、Book 2 の LESSON 3 では世界こども会議で発表していた Nasheed に声をかけている。また We're Talking 3 では Paul に誘われるのを待っているかのような口ぶりである。

さらに Paul のことを書き加えたいところだ。Book 1 の LESSON 1 で Kumi に話しかけられてから、彼は Kumi をたいそう気に入っている様子が伺える。LESSON 4 では積極的に食器の片づけを Kumi とする Paul。なんと Book 2 の LESSON 3 では先に帰ってしまう Kumi のために handouts をとってお

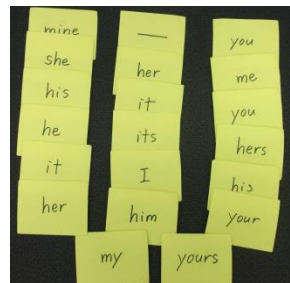
いてあげることを約束している。このように様々な人間関係が随所に隠れていて、出てくるたびにその先の情報を少しだけヒントとして生徒に言うことにしている。そうすると中には、兄や姉の教科書を読みたがる生徒も出てくる。そんな時は反対に見てはいけないと伝える。そうすると、より興味を持って次の LESSON を楽しみに読んでくれる。

このような複雑な人間関係が隠れている NEW CROWN は何とも奥が深いと言わざるを得ない。

GET Part 3 は Meiling が Raj を連れて校内を案内する場面にかわる。世話好きな Meiling はすれ違う先生方を次々に紹介していく。新出事項は代名詞である。このセクションでは教科書と少し離れて代名詞の表を使った班対抗でゲームをしてまとめて覚えさせる。その際、主格「～は・が」、所有格「～の」、目的格「～を・に」、所有代名詞「～のもの」を一緒に覚えることを付け加える。（図 2, 3）次の時間には複数形も導入すると同時に、小テストなどでライティングも忘れずに行う。

【図 2, 3】

【単数】	～は・～が	～の	～を・～に	～のもの
わたし				
あなた				
彼				
彼女				
それ				



【班対抗ゲームのルール】

- (1) ブランクになっている代名詞の表と代名詞カードをそれぞれ班に 1 部ずつ配布する。
- (2) 班員はじゃんけんで順番を決める。
- (3) 1 番手の机に(1)で配布されて表とカードをバラバラに置き、教師の合図で一斉に並べる。

- (4)出番ではない班員は言葉だけの応援をしてもよい。
- (5)早くできた班員は手を挙げて教師に知らせ、全班が終了したところで答え合わせをする。



早いだけではなくて正確にできた班からポイントを与え、全班員が回ったところで合計ポイントを競う。

教科書を導入するときには、表が頭の中で再現できているので、大半の生徒は内容について細かく説明しなくても難なく理解できる。加えて教科書の本文に出ている代名詞に印をつけながら読むと注目することができて、理解の助けとなる。

LESSON 5 では、家族の呼び方と序数が一緒に導入されている。家族の呼び方は、日曜日の夕方に放送されている国民的アニメを例にとりて説明すると理解しやすいようだ。注意したいのは教科書に載っている家族の呼び方以外のものも出てきちゃう。例えば甥や姪、いとこなどである。その際、積極的に教えたい。楽しく知る助けとなるものなら一度に導入するのも一つの手である。また、序数は野球のベースを例にして解説を加える。これ以降は日付を英語でいうことができるので、後述の Q&A では常に質問できる。どちらも結局は覚えることになるのであるが、できるだけ身近な例を示したいと考えている。説明した次の授業では小テストを必ず行う。

### 3. 3年間を通した帯活動

- (1) 最初の 5 分でできること : Q&A (中 1~中 3)

1 年生もある程度授業をすすめていくと質問できることや答えられることが増えてくる。ただし学習した時はわかっていても時が経つと忘れてしまうことも多い。そこで授業の最初に Q&A を行い、リサイクル学習している。Greeting の後、教師の質問に答えられたら座ってもよいというルールで、早く座れば次の活動 (BINGO や Dictation, 教科書の予習等宿題となっている課題) の準備をすすめてもよいということにしている。質問する内容は既習事項が中心となっていて、これまでの学習を思い出す良い機会となっている。特に少人数授業の場合は 5 分程度で済むので帯活動として有効であると感じている。

ここで既習事項だけではなくて、未習事項を時々混ぜておく。例えば Can you play the piano? を質問したとする。生徒は聞き慣れない言葉なのでわからないが、教師は例として Do you play the piano? —“Yes, I do.” Or “No, I don’t.”と言った後、Can you play the piano? —“Yes, I can.” Or “No, I can’t.”と示すと、察しのよい生徒は“Yes, I can.”などと答えるようになる。すると Can you eat natto? や Can you speak French? などの質問にも次々に答える生徒が出てくる。

#### 【Q&A 質問例】 ~1 年生~

- Where are you from?
- What day is it today?
- What's the date today?
- How is the weather today?
- How do you come to school?
- (他の人の教科書を指して)  
Is this your textbook?
- (隣の人を指して) Is this your friend?
- (続けて) Who is he?
- Do you have your room?
- Are you from △△ elementary school?

(2) 次の 5 分でできること

#### 【3 年間の活動一覧 (例)】

中 1 (4 月~7 月)	BINGO (日本語→英語)
中 1 (9 月以降)	BINGO (英語), 小テスト等

中2(4月~7月)	オリジナル BINGO 等
中2(9月以降)	Dictation(中1の教科書)
中3(4月~10月)	Dictation(中2の教科書)
中3(11月以降)	リスニング, 単語等
中3(1月以降)	長文問題練習

生徒たちは授業が3部構成になっていることを初めから意識させたい。

①Greeting(1分)

①Q&A(5分)

②BINGO など

③教科書やプリント学習などのコミュニケーション活動

といった流れがあることが分かれば、先をみて学習をすすめるようになる。また、英語の苦手な生徒にとっては①または②ではがんばろうといった励みにもなっているようだ。

### 3. まとめ

各学年の最後の授業でアンケートをとることにしている。3年間を通しての様々な活動でもっとも人気があったものはQ&Aであった(約80%)。授業の中で、speakingを意識した活動がほとんどできないのが現状である。たった一言でも「話す」ことを体験してそれらを重ねていくことで「英語を話す」ことへの抵抗が少なくなるというのが主な理由であった。また、教科書は人物相関図を作りながら読んだので、次の学年になって新しい教科書を読み進めるのが楽しみであると言ってくれた生徒もいた。こうして考えてみると改めて「英語を読む」のではなく「英語で読む」ことの大切さを感じた。読み物としての教科書の工夫があるのは、NEW CROWNの前版が絶品であることも付け加えたい。